俳優樂屋雜談 越後水恠

特
へ遠13
1976

特
へ 遠13
1976

特
門へ 13
號 1976
巻

俳優樂屋雜談

越路之怪

上之巻

立川焉馬作

歌川國貞画

天保十一子新鐫

和泉屋市兵衛版

[illegible]

天保十一子北春

立川焉馬

十良

一角

八さ　とびあうきこゑて
わこじやーもの
ちうふ
ふどをそ
今かへさとをあまうさ
つとーまちこのあ
くこのみしのあ
めんそうとうりのでて大きる
にあそえのちうるめあり
けでんめえあれの
とこのむあさとくそつは
れがこちまち
でなりのにあちふよ
うごあんこつせつ
てふひかるえひう
れいあうそんせとそて
まだきこじが今
めーをうれからこるん七八
こんこうるじがのらあ一
るでんのこまちぬちふりうこ
らのりもやたんせんりうそと
あれるさんそのとの
とこをきくふあこ
こてなりさんのこふんちと
なもあうそうあくありてるのこ
かみるんそうのでこをそるそ
んがとうもきあでんちひこそ人の
ライ　ものこ

十二のたをなめりこそ
ふりそをふさんくのこと
らくしくぬんをせーなどを
まあこんの
ともんをさうて
あんこさこえ
ゆせあんこら
れあばこまをふ
てをこさそうあ
とこさをこちそ
てつたひせこ
さもあるどて
うちこらさまの
あらしさまもの
花うもの
ばをかるろう
とんそうとう
けりばをうとこ
らくれりしみや
とのりこそ
あしぶんばのま
のやりせーおうくやこ
るこてふこうけをこ
とばこりんをてちこ
とばこりんをてちこ
あのうけらこばこ

つづき

さをあらひれバ
そのひさ
より
そひて
みるとなく
きくとなく
ゴがみの
ぜんちゃ
ゑそあるを
ゐりそうをを
るうくえ
まづあの
のこころ
ゴぐ牙も
るぐくうた
をつくえ
ふっく
あのふん
きうえうう
うりや
きぐうた
よろりの
あそ

ごぜんごかりんへ
つゐうぎせるちそこぢう
ゆくへきこころが引たくとも
二世のちぎりハれなよふうる
らもかりのなるとうよう
うりをとこのえもんたのうさま
ゐれバまこのあををこのうへ
ゐへよりまつひのそくうえんあ
ゐへとうとうりあ

ろうりやをもーとあぐきんぐるーよさびみこころとうをーうくいなもとんとちぐうんやえんあれがこそひとうまするゐすゐのうこの中ごちうりきすゑのまろ山ふれうけそつまとおのひゐれと人目さぐる

ぢゐうぐりへんとゐなかとみうをううかりんぢゐうそうのまくりぐ人ゐうきがそこそきのとくるゐこそあれつゐまゐのきくうりけんへんとのふうをとをあうそうゐひとうれとろけんせうをごんさうるくあこ二ゐの引とゐすゐをのへやへんられこれかこころはゐををうしうひんこうれたつさもつぎス

天保十年庚子春新出稗史目録

新編金瓶梅 八冊 初編十八編 曲亭馬琴作 七編新刻 歌川國貞画

金毘羅船利生纜 第九編 曲亭馬琴作 八冊 歌川國芳画

花櫓詠義經 全五冊 美圖垣笑顔作 勇齋國芳画

名所競睦珠歌話 全四冊 美圖垣笑顔作 勇齋國芳画

兒雷也豪傑譚 第二編 美圖垣笑顔作 四冊 香蝶樓國貞画

彦惣昔摸樣娘評判記 全六冊 山東庵京山作 香蝶樓國貞画

美艶仙女香 一包四十八錢 黒油美玄香 坂本氏製

余 書物錦繪問屋 江戸芝神明前三嶋町 和泉屋市兵衛版

俳優樂屋雜談
江戸の部越路法怪
下

俺優樂屋雜談

三保十一子新鐫
甘露堂板

立川
雪写作
歌川
國貞画

「つぎ」とうまそうにちゃをのんであくびをしながらさてこれからあそびにでもいこうかとおもうところへかんだいがおいでなされたとのしらせにこれはさてもおもいがけないことだとおもいながらもおくへとおしてあいさつをすませてからいったいどのようなごようでおいでなされたかとたずねるとかんだいさまのおっしゃるにはこのたびおまえのおやかたがおくにへおかえりになるについてはおまえもいっしょにおくにへおかえりなさるようにとのおおせだからそのつもりでいるようにとのことでござるとつたえてかんだいさまはおかえりになりました

さてそのつぎのひになるとおやかたのおくにへおかえりになるのでおともをするものどもはいうにおよばずおやかたさまもおくへおかえりになるのでおおぜいのおともをつれてでかけることになりました

美艶仙女香
黒油黄玄香
坂本氏製

つぎ
火のひかりの
あれぐうるれが
きそうのかるさけによらざりせばあやこと人
けのの系ーたとるるべたれいとありがたた
つぎえ

つゞき ふたゝび目とめをひらき
せそさそは今のはあやしき
ことなりとそゞろにおそれ
の火をもまたさしおきかね
はらむざんやおきくは子
むのめんさまざまにかき
こりけるつまこいえるより
けふきこのごとくてんまり
るけしきもたちまちと
あかりなもとのふ
るけはしがたくて
あるべきにあら
されば さまざま
つまとおくみか
まつ月も入り
たそかれがたと思ひぬ
山中なれどとどりて人
さとへいでるはもべきに
あらもあるべしと
こてんとすれば
ひきつゝき一とおしも
おつまをかけれはつまとが
くるしむこゝろの子のおかいを
ふろしきにつゝみせめてわかれの
ちからもそらふむりてえさせんと
あかんぐせるにおとせをひ
つまこそひとまたやうくと
ふもとのゝ又由れける

されるをもひるの
うちこそよけれと下ひれ
ときにあやしくおそれ
あやしてゆへるりがくにあるさの
そまずみなかみ
ゆれおせんをべあげぬ
つとひて
二人りれ刃のけいよ立て
そうとせーがえ
きそをとりるに
まるどとよびて
まへのごとく

むろの人には
ちやみせありて今
おれてそのてんせ
をひらんとする
ところなれども
そろられくおつまを
よりおぼらくちから
やうくんでろつに
一下りにてつくそど
ふあかりんの
りてこゝえがこれれば
そのまゝそてあやしむ
つまこいあるがおきさいを
ゝてりおぼらくちやうを
たのむことにあるども
きのどくまあかりけん
こゝろよくうけあひ
けるおもろふその
夜々けのせんをを
二せんのちきさうりて
すえれがつまと仰心
るく女みむろひとの
ざうきさ二人り
仰せ入せんを二せん
らくせーやとり人れば
下女こそてらふ
中う

おもくめのころそろ
らずもひとろの
むろへいでけるが

ふところへいれおけるが
いかにさんどやあるが
さがるれどまとせうりきまく
おりれんせんおるさり
おられるまいゆて
すてさのおきあう
さめのそのうちへ
ちんしであのあれや
このあぢさきえ
ともはおとそれ
やくそろいくくるき
まてやとつぶやき
るがらあてうを
てそうちらにおき
るかをきれど
のくまやそれ
そとおるさこの
おそまぐふとぎる
おおきらさる
とつ手すれのひ
はろうこれむれ
ども つぎへ

新編金瓶梅 八冊 初編六編曲亭馬琴作 七編新刻歌川國貞画

金毘羅船利生纜 第九編曲亭馬琴作 八冊歌川國芳画

花櫓詠義經 全五冊 美圖垣笑顔作 一勇齋國芳画

名所競睦珠歌話 全四冊 美圖垣笑顔作 一勇齋國芳画

児雷也豪傑譚 第二編美圖垣笑顔作 四冊香蝶樓國貞画

小きん彦物 昔摸様娘評判記 全六冊 山東庵京山作 香蝶樓國貞画

美艶仙女香 包四十八冊 東橋南傳 馬町三丁目 坂本氏製
黒油美玄香

余 初編 錦繪問屋 江戸芝神明前三嶋町 和泉屋市兵衛

立川焉馬著

歌川國貞画

作者曰